

発表 ①

「出会い～自然農と大安心の世界～」

中村康博（61）

自然農歴 20年 赤目自然農塾代表

奈良県宇陀市在住

11月中旬、今年の稲刈りも無事終わりました。最後の二畝は、家族三人で刈りました。妻と中学一年の娘が楽しく稲を刈る様子に何とも言えない幸せと感謝の気持ちがわいてきて笑みがこぼれます。いつの間にか娘は作業の流れを理解しており、僕が指示をしなくても次にすることを見つけてどんどん進めていきます。「脱穀も一緒にやりたい」と楽しみにしています。

20年前までは、このような暮らしをするとは想像もしていませんでした。ありがたい事だとしみじみと感じる晩秋の夕暮れでした。

1999年の5月、はじめて妻と赤目自然農塾に行きました。それまでは、農業経験も無く、自然農という栽培の仕方があることも、もちろん川口さんのことも知りませんでした。赤目塾の入り口から見える山あい広がる棚田、あちこちに育っている麦・・・、それまで僕が知っていた田畑とは全然違う景色でした。いろんな年代の人が集まっていました。

農作業の実習が始まり、作業しながら説明をしてくれる方が川口さんだと初めて知りました。たくさんの人達の中でも気負うことなく立っておられる姿や流れるように作業をする様子、丁寧な語り口にひかれるものがありました。

初めて訪れた日に受けたそれらの感覚が今日まで塾に通い続けてきたことにつながっています。そこには、それまで生きてきた世界とは違う安心感がありました。僕はその安心感が何なのか、どこから来るのかを追求したかったから続けてきたのだらうと今にして思います。けっしてお米作り、野菜づくりの方法だけを習得したくて通ってきたのではありませんでした。

自然農を実践すると単に食に対する安心を得られるだけでなく、生きていく上で納得が入り大安心につながります。たとえば「添い、従い、応じ、任せる」という向かい方は会社や家庭においても大切なことで、ともすれば自分本位になりがちな僕は大いに気付かされました。

土曜の夜に開かれる山荘での言葉を通しての学びでは、川口さんのお話からたくさん事を学ばせて頂きました。人として一生を全うするには、どうあれば良いのか。人間性の成長、境地の獲得、そして芸術、宗教、政治、経済、医療、教育など生きていく上で大切な分野の本質を明らかにすることは、今まで漫然と生きてきた僕にとって、目から鱗が落ちることばかりでした。人生観、価値観、世界観が変わっていきました。物やお金ではない本当の豊かさを求めるようになりました。

納得のいく人生を送りたくて、農的暮らしをしたくて奈良へ移住し、その後会社を早期退職したことは当然の流れでした。あの日の出会いが今の暮らしの始まりでした。

25年前に震災に出会い、20年前に自然農と川口さんに出会い、赤目自然農塾で塾生の人達に出会い、スタッフの役目と出会いました。それらの出会いによって自分が人としてどう育てばよいか教えられました。僕が成長することで家族も幸せになるのだと気づかされました。家族が幸せになることは、人類全体の幸せにもつながっていくのだと思います。

全ての出会いに感謝しています。

発表 ②

「本当のことを学ぶ喜び」

中村洋子（53）

自然農歴 20年

奈良県宇陀市在住

結婚後一年もたたないうちに起こった阪神淡路大震災。それをきっかけに、私の人生は大きく変わりました。

数年後、たまたま見ていたテレビで自然農と川口由一さんを知り、赤目自然農塾の塾生として学び始めました。私は震災以降、どのように生きたらいいのか全くわからなくなっていました。でも、赤目自然農塾でその答えを知ることができました。学べば学ぶほど納得して、ようやく生きる道が見え始めました。田畑に立つのが本当に楽しくて楽しくて……。自分のいのちが喜んでいるように感じました。

自然農を学んで、私もお米やかぼちゃのように花を咲かせ実をつけて、一生を全うしたいと思うようになりました。入塾して五年ほどしたころ、今の家と出逢いました。朝日の当たらないマンション暮らしから一転して、大和高原での農的暮らしが始まりました。その翌年には子供を授かりました。まるで夢のようでした。幸せでいっぱいになりました。

お腹の赤ちゃんの成長と同時に、どんどんふくらんでいく自分のお腹に、生まれてはじめて「私もいのちだ」と思いました。そして自分とお腹の赤ちゃんに、言葉では言い表せない確かな一体感を感じました。安らかな喜びで満たされました。

娘との暮らしが始まると、さらに喜びが増えました。娘は五才頃から虫が大好きになり、バッタ、カマキリ、カブトムシ、クワガタムシ、水生昆虫、ザリガニ、カナヘビ等々いろんな生き物たちを追いかけ捕まえました。私にとってもそれは、自然農でお米やお野菜を育てるのと同じくらい楽しいことでした。一緒に捕虫網を振りまわしながらいのちが躍動するのを感じました。

そんな日々を送っていましたが、時には家族の病気やケガなど予期せぬことも起こりました。赤目自然農塾で学んでいても、何か大変な事が起こるとそれを受けとめきれなくて、自分の未熟さをつきつけられました。知っているのと行動できるのとは、まったく別のことでした。自分がまだ本当には救われていないことに気がつきました。さらに学び続けるしかありませんでした。

震災後、本当の生き方を求めて赤目自然農塾と出逢って、はや二十年の月日が流れました。今も、私にとって学ぶことは、生きていくのに欠かすことができない大切なことです。学ぶことが大きな喜びでもあります。

先日家の中を片づけていたら、ある冊子が出て来ました。福岡自然農塾の方々が作って下さった川口さんの講話録「大いなる道に 大いなる我に 大いなる世界に」というものでした。その中でこんな言葉に出会いました。

『不満を思う時は、自己本位・・・』、『常に謙虚な人は、おかしいところはおかしいとその辺のところをよく見ていますけれども、不満の気持ちにはならない・・・』

私は、これだ！と思いました。

赤目自然農塾で人としてのあるべきあり様は「素直、誠実、謙虚」だと教わっていたものの、私は特に謙虚という事がわかっていませんでした。ずっと自分が本当の謙虚ではないことをうすうす感じ

ていました。でもこの文章と出会い、心の中のもやもやしたものが一つ消えました。このことは、私にとってすごく大きなことでした。どう生きたらいいのかまた少し道が見えはじめました。

こうして学ぶことで、ゆっくりゆっくり一歩ずつですが、私を生きることが本当の喜びになっていくような気がします。

今も心に残る二つの風景があります。一つは、去年の秋の終わりのある小春日和に見た2匹のトノサマバッタです。草の葉の上で、大きなメスの背中に小さなオスがちょこんと乗ったまま少しも動かずにじっとしていました。いつまでも、いつまでもそのままの姿でした。ぽかぽかの太陽の光をあびて、とても平和な風景でした。次の日ふと見ると、別の草の上で2匹は交尾をしていました。

もう一つは、やはり冬間近のころの枯れ草色をしたカマキリです。このカマキリもじっとして動かないので、私はてっきり死んでいるのだと思っていきなりつかんでしまいました。すると、ゆっくりふわっと足が動きました。生きていました。次の日も同じ場所でじっとしたまま生きていました。それから二日ほどしたある日、同じ場所で今度は本当に動かなくなっていました。カマキリはあるがままの姿で生から死へと運ばれていきました。

虫たちの素直で正直な姿に感動をおぼえます。いのちって本当に愛おしいものだと思います。そして、全てのいのちをありのまま受けとめ受け入れているこの宇宙自然界で、私も今の未熟なありのままの自分を生きたらいいのだと、ようやくこの年齢になって思えるようになってきました。

いのちの世界のことは、まだまだ知らないことばかりです。それを知ること、学ぶことが今本当に楽しいです。娘と一緒に虫たち、草花、動物たちの本もたくさん読みました。いのちの営みの美しさや荘厳さ、見事な調和、そして親子の愛の深さにたくさん感動しました。

今も暮らしのなかで学ぶことがたくさんあります。そして、私が本当のことを学べるのは、とてもありがたいことだと思っています。

自然農と出逢い、本当の学びと、それを学ぶ喜びを知りました。その喜びが、今を生きる人たちや未来の子どもたちの幸せと平和につながっていったら、本当にすばらしいな・・・と思っています。